

水稲害虫フタオビコヤガの防除対策について

農業試験場 環境研究室

水稲害虫フタオビコヤガの発生が平成 17 年より突然増加し、その被害が問題となっています。

このため、農業試験場では平成 18 年度よりフタオビコヤガに関する試験研究に取り組み、このたび、効果的な防除法を確立しましたので、紹介します。

1. フタオビコヤガとは

(1) 幼虫が水稲の葉を食べます (写真 1)。発生が多いほ場では、収量が減ります。



写真 1 フタオビコヤガによる水稲の食害

- ・ほとんどの葉が食べられ、上の葉だけがかろうじて残っています。
- ・幼虫が成長するにつれて、食害量が急激に増えます。

(2) 幼虫は緑色をしていて、約 2 センチぐらいまで成長します (写真 2)。成虫は体長約 1 センチの小さな蛾となります (写真 3)。



写真 2 フタオビコヤガの幼虫



写真 3 フタオビコヤガの成虫

(3) フタオビコヤガは「イネアオムシ」と呼ばれることもあります。

(4) これまで、フタオビコヤガの発生は非常に少なく、農家はもちろん水稲栽培指導関係者にもほとんど知られていませんでした。

(5) 平成 18 年の調査の結果、春に羽化したフタオビコヤガの成虫が、水田に移植された水稲や移植前の苗に産卵し、その後、水田内で世代を数回繰り返すことが分かりました。また、水田における幼虫の発生期間は移植直後～8 月下旬、発生ピークは7 月中旬～8 月中旬であることも分かりました。

(6) フタオビコヤガは水田の土の表面においてサナギで越冬します。

2. フタオビコヤガの発生状況

- (1) 平成 16 年以前の発生は非常に少なかったのですが、平成 17 年に県東部と西部を中心に突然多発しました。
- (2) 平成 18 年には発生が県下全域に拡大し、多発地域も前年より増加しました。
- (3) 平成 17～18 年に発生が多かった地域では、平成 19 年も引き続き発生が多いと考えられるので、注意が必要です。

3. フタオビコヤガの効果的な防除法

- (1) 育苗箱施用剤と、発生ピーク時（7 月中旬～8 月中旬）の粉剤・水和剤等の本田散布を組み合わせた防除体系が、鳥取県の発生生態に適しています。
- (2) フタオビコヤガの発生が多いほ場では、「『スピノサド』を含む育苗箱施用剤＋粉剤等の穂ばらみ期散布（他の病害虫との同時防除も可能）」を組み合わせた防除体系が最も効果的です。

スピノサドを含む育苗箱施用剤として、ブイゲットアドマイヤースピノ箱粒剤、ビームアドマイヤースピノ箱粒剤、フルサポート箱粒剤等が販売されています。
- (3) 鳥取県で広く使用されている「プリンス」を含む育苗箱施用剤の防除効果は、「スピノサド」を含む育苗箱施用剤より低く、残効も短いです。

そのため、「プリンス」を含む育苗箱施用剤を使用する場合、「育苗箱施用剤＋粉剤等の穂ばらみ期散布（他の病害虫との同時防除も可能）」に加え、発生が多いほ場では、7 月に追加防除が必要となります。

4. フタオビコヤガを防除する際の注意事項

- (1) 7 月に追加防除を行う場合の防除の目安（暫定版）は、①発生している幼虫の 7 割以上が約 1.2cm 以上、②食害された株率が 90%以上、③食害株の食害面積率が 10～20%以上、の条件がすべて満たされた場合です。
- (2) 育苗箱施用剤の選定にあたっては、いもち病等の病害についても考慮し、地域の実情に合った薬剤を選択してください。スピノサドを含む育苗箱施用剤は、山間地等において、いもち病に対して十分な効果が得られないので注意が必要です。（使用する農薬については、お近くの JA、農業改良普及所等にご相談下さい）
- (3) スピノサドを含む育苗箱施用剤を使用したほ場においても、周辺ほ場での発生が非常に多い場合には、穂ばらみ期以前の追加防除が必要となるので、発生状況には十分注意してください。
- (4) 散布量が不足すると防除効果が低下するので、規定量を均一に散布してください。

5. 具体的なデータ

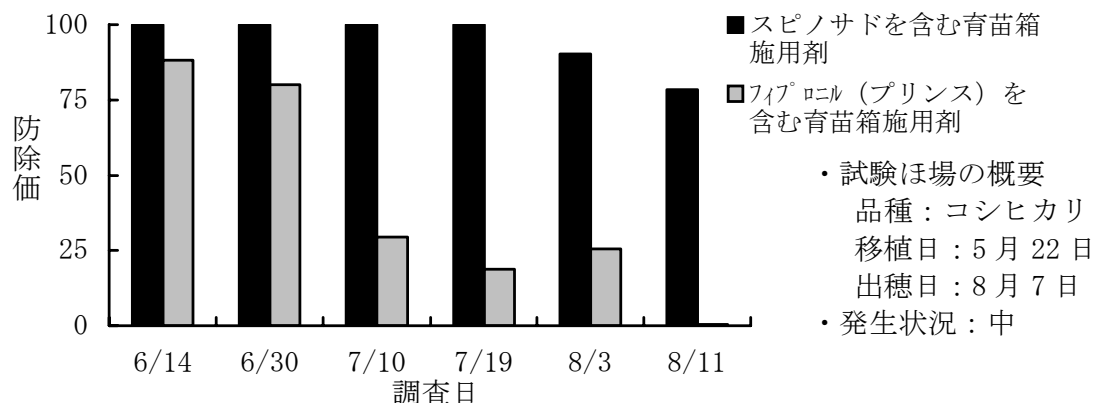


図1 フタオビコヤガに対する育苗箱施用剤の防除効果（早生品種ほ場）

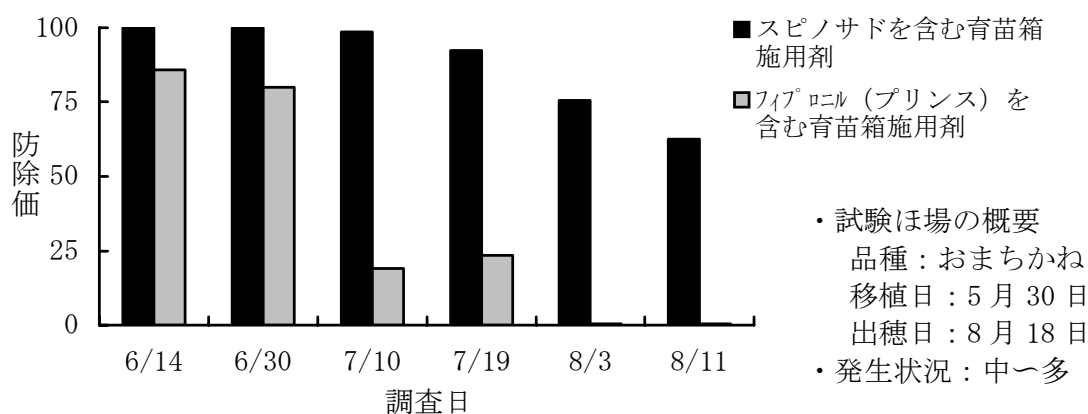


図2 フタオビコヤガに対する育苗箱施用剤の防除効果（中生品種ほ場）

表1 フタオビコヤガに対する粉剤（殺虫剤）の防除効果

薬剤名	処理量	散布1日後の死虫率 (%)
MR. ジョーカー粉剤DL	4kg/10a	100
スタークル粉剤DL	3kg/10a	100
ダントツH粉剤DL	4kg/10a	100
トレボン粉剤DL	4kg/10a	100
パダン粉剤DL	4kg/10a	100
ロムダン粉剤DL	4kg/10a	100
無処理	—	0

- ・試験ほ場の概要
品種：ひとめぼれ、移植日：5月19日、出穂日：8月2日
- ・発生状況：中
- ・散布日：8月2日